

## 百丈やぐらから石岡繁雄氏がピット-シューベルトに渡したエッジ試験基準

OWCC 中川和道

2000 年 5 月 20 日にピット-シューベルト氏が百丈やぐらを訪れた[1]。大阪府連技術委員会は来日前から彼の著作の日本語訳を入手し、技術交流を準備した。交流の内容は写真 1 や文献[2]で紹介された。本稿では写真 1 (労山 60 周年記念ビデオ「目で見える労山の歴史」15 分 02 秒目)で中川とピット氏が議論している「日本独特のロープのエッジ試験基準 (石岡繁雄氏らが策定、1975 基準交付)」について述べる。ピット氏は帰国後、石岡氏らのエッジ試験基準を UIAA 基準にして世界に広めた。百丈やぐらがその役割を果たしたことは、歴史的なことである。

岩角での切断試験基準に大きな疑いをもって来日した UIAA 技術委員ピット氏を、石岡繁雄氏・伊藤正俊氏・

OWAF 技術委員会は、言わば「宿敵のように迎えた」(Y 崎さん談)。時はまさしく貿易摩擦解消と称して海外の基準に沿って日本の輸入の法律を変えるべしとの議論が国会でなされ[3]、通産省役人 3 名がピット氏や西本武志理事長らに東京で面談し「日本の独自基準を UIAA はどうするか?」と尋ねたのである。西本氏の回想によれば、ピット氏は役人に向かって「日本のエッジ試験基準はうまく機能している。これを変える必要はない」と述べた、さすがに見識ある人だなあとと思ったと中川に語った。通産省役人は黙って引いた、むしろ、お墨付きを得て安心したかのように見えた、と西本氏はいう。

石岡さんはご高齢のため百丈やぐらには来れなかった。残念。写真 1 でピット氏は「引張強度では強いから安全と言い、岩角では弱いから危険と言う、あなた方は矛盾だ」、中川は「岩角で弱点(Weak Point)があることはあなたも知っている。この弱点を克服する使い方をすれば、強さ Strength+弱点克服 Weak Point Overcoming =安全 Safety だ。この安全な使い方をするうえで岩角警告 Warning のテープ表示は必須だ。そうお思いでしょう」とか何とか、英語で必死にやりあった。Y 崎さんが中川の背後から「宿敵なんだろう、もっと戦えや」とはやし立てた。ピット氏は押し黙って中川の顔をじっと見つめた。反論はしなかった。思うに、あれは口頭試問だったのだろうか\*。

この話には重要な後日談がある。数年後、購入した外国産ロープの「エッジ試験合格」表示に気づいた中川はピット氏が UIAA の基準にエッジ試験(UIAA108 条)を 2000 年に導入したことを初めて知った。文献[4]によれば、(1)エーデルワイスロープは 1984 年のストラトスが岩角テスト(角度 90°、エッジ角 R=0.75 mm)合格以来、シャープ、オキシジェン 8.2mm(2006 年)も合格。(2) UIAA シャープエッジ試験(UIAA108 条)は、EN892 基準や UIAA101 基準でのロープ支点到丸みを帯びたものではなく直角の金属を使う、(3)UIAA の安全委員会の一員であったシンギングロック社ではこのシャープエッジ試験(垂直落下)はあまり現実味がないと考え、実際の岩場で起きる可能性がある、「落下時にロープが鋭いエッジの上を斜めに通過したらどうなるか」という実験方法を開発し、ロープトラバーステスト(Tテスト)と名付けた。そしてドイツで 1 度そのテストをやってみた。参加したすべての会社の 10.5mm のロープが切断されてしまい、無事に生き残ったロープはなかった、などの経過を経て、(4)UIAA108 条は、2004 年に凍結(サスペンド)された。(5)それ以後も試験実施実績があるロープメーカーはエーデルワイス、エーデルリット、ベアールであった、という。

百丈やぐらは石岡氏のエッジ試験を世界に広めた登山の歴史的スポットとしてさん然と輝いている。

[1] 2000/5/20NHK ニュース 19 時で放映 中川所蔵。[2]<http://www.geocities.jp/rouzenkoku/jwaf-7.html> 体を浮き上がらせるボディビレーがごくわずかの効果しかないとの公開実験の結果は「620kgf がたった 50kgf しか減らないのか」と、労山の内外から反響を呼んだ。[3]第 103 回国会内閣委員会第 2 号昭和 60 年 11 月 19 日三浦久議員質問。 [4]Lynn Kato さんのブログ <http://lasfotos.blog5.fc2.com/blog-entry-729.html>

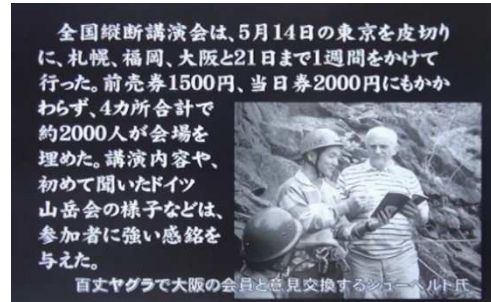


写真 1. 労山 60 周年記念ビデオ「目で見える労山の歴史」15 分 02 秒目。